

## 22) ミサ中説教 2020年4月28日

任意 聖ルイ・マリー・グリニョン・ド・モンフォール 司祭

朗読 使徒言行録7：51-8：1a

福音 ヨハネ6：30-35

兄弟姉妹の皆さん、私の新たな信仰の歩みが始まった15～17歳の時のことをお話しさせてください。その頃、私は、カトリックの信仰の中に様々な信心があることを知って驚いたものです。しかし、私にとっては必要のないものでした。私にはイエスと聖霊で十分でした。当時の私は、時間があれば自分の部屋のベッドとタンスの間に座って、あるいは庭の木の下で、聖書を読み漁っていました。ところが、実は、私には書いてあることがさっぱり理解できなかったのです。年が若かったことも関係があるかも知れません。その後、聖霊が私を新たにしてくれてから、少しずつ理解できるようになっていきました。

私の母の友人で、聖母をととても大切にしている人がいました。私が会話の中で、「イエス」と繰り返すと同じ頻度で、彼女は「マリア」を連発しました。そんな彼女のことを私は少しも理解できませんでした。後になってある老齢の司祭と知り合い、やっとなぜ彼女が「マリア信心」を持っていたかが分かったのです。

その司祭は、私にとって霊的指導者でした。彼が言った多くの言葉が、私の中に刻まれていきました。彼のもとで告解したり、信仰を分かちあったりしましたが、神父は私のためにいつも十分に時間をとってくれました。

私は、「僕は、僕のここの部分をもう少し良くしたい」と言うと、神父は、「フレンツ、より良いことは、良いことの敵だよ」と言ったのです。

始め、私には意味が分かりませんでした。

それはつまり、「良いことは良い。もっと良いことをしようと試みると、人の心に傲慢が忍び込む」ということなのです。

ある日のこと、神父は私が次に進む準備ができたと判断したのか、この本をプレゼントしてくれました。「黄金の本」（日本語では、「聖母マリアへのまことの信心」）です。聖グリニョン・ド・モンフォールが著したこの本は、宝物だと思います。

私は、この本を学校が休みのある日に読みました。マリアに自分自身を完全に明け渡すことの重要さとその方法が書かれていました。この、「マリアへの委託、奉獻」が私をさらにイエスに、聖霊に近づけてくれたのです。聖母マリアはイエスへ行く道を、さらに確実なものにしてくださいました。

聖グリニョンが示されていることは、聖アウグスティノが言われたことです。聖アウグスティノは、彫像を作るには二つの方法がある、と説かれています。まずは、石や木にのみを入れていく方法です。例えば、大理石を彫って作ると素晴らしい彫刻ができるでしょ

う。しかし、ひとつ間違えると、石を割ってしまうこともあります。そうなると、もう一度最初から始めなければなりません。

もう一つは、すでにある型に鋳物（いもの）を流し込む方法です。聖アウグスティノは、価値あるもの、たとえば金を溶かして完璧な鋳型に流すなら、労せずして素晴らしい彫刻ができあがる、と言うのです。この「完璧な鋳型」が、聖母マリアです。

マリアは、胎内でイエスを形作り、ナザレでイエスを育て、たくさんのかを教え、聖書に書いてあることを伝え、共に祈りました。マリアは、ヨゼフの協力のもとに共にイエスを形作られました。

私たちがマリアに完全に奉獻し委ね切るなら、「マリアによって、マリアのうちに形作られる」と聖アウグスティノと聖グリニョンは言われるのです。

もちろん、「私は美しく彫刻された大理石だ」と言うのは自由です。

私の体験からお話しします。今まだ私は成長過程にありますが、常に成長することが可能な状態でいたいと思っています。聖霊が私を常に新たなものにしてくださることを望みます。

しかし、私の基礎はマリアの御心によって形作られました。私の信仰、希望、愛、キリスト者としてキリストを生きることを、マリアの御心という鋳型によって形作られました。

マリアの鋳型に形作られたいか、あるいは彫刻された大理石になりたいかを決める時、「イエスならどうなさるか」と祈り、考えてみるといいと思います。

「イエスならそうするに違いない」という答えがいただけることがあります。そういう時は、その答えに従ってください。

このように考え、祈っても、時々何の答えもないときがありますが、そういう時、私は「イエス、あなたが私と話してくださらないなら、分かりました、あなたのお母さんに聞きます」と言います。

聖母にうかがうと、すぐに答えを、インスピレーションをいただきます。私が説教を用意しようとして、福音を読むときは、聖母の目を通して読むようにしています。すると、いろいろなことがとてもはっきりと見えるようになるのです。このようにして生まれた説教が数多くあります。

なぜなのでしょう？ 聖母はイエスを胎内に宿し、育てられたから、そして、聖母はイエスと愛によって固く結ばれているからです。

そういうわけで、聖母の御心の中で私たちはイエスをよりよく理解することができるのです。

「いやいや、そういうのはちょっとなあ」「聖書的じゃないし」と言う方がいるでしょうか？

天使は、「ヨゼフ、恐れず妻マリアを迎え入れなさい」（マタイ1：20）と言いました。そう聖書に書いてあります。「マリアを迎え入れなさい。」

イエスが十字架にかけられたとき、ヨハネに向かって「見なさい、あなたの母です」、聖母に向かって、「これはあなたの息子です」と言われました。

イエスはご自分の御母を私たちにくださったのです。この贈り物を受け取らない手があるでしょうか？

私たちも自分自身も御母に委ねましょう。そうすれば、聖母は、私たちをイエスの御心へ、御父のふところへと導いてくださるでしょう。

喜びをもって、この道を行くことができるように、主が祝福してくださいますように。

主よ、聖母によって、聖母を通して、イエスをより深く知ることができるよう、聖霊で私たちを満たしてください。父と子と聖霊の御名によって。アーメン